

令和2年産

気仙沼・南三陸 稲作情報 第6号

令和2年7月3日発行

宮城県米づくり推進気仙沼地方本部・宮城県気仙沼農業改良普及センター

TEL 0226-25-8069 FAX 0226-22-1606

今後の管理のポイント

- ・ 根の活力の向上，無効分けつの発生抑制のために中干しを実施しましょう。
- ・ いもち病の発生に注意し，発生が確認された場合は速やかに防除しましょう。

1 気象の概況

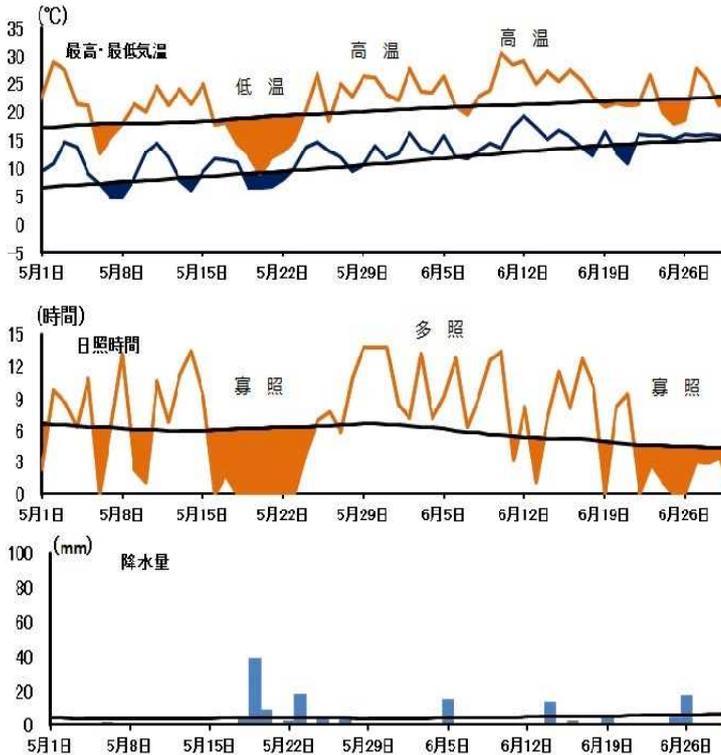


表1 気象経過（気仙沼アメダス）

	平均気温(°C)		日照時間(h)		降水量(mm)	
	本年値	平年差	本年値	平年比	本年値	平年比
6月 月上旬	18.5	2.5	98.8	161%	14.5	37%
6月 月中旬	20.0	2.9	69.9	130%	20.5	39%
6月 月下旬	18.5	0.4	22.4	52%	30.0	49%

<気象概況（仙台管区气象台発表）>

【6月上旬】

- ・ 平均気温：かなり高い
- ・ 降水量：概ねかなり少ない
- ・ 日照時間：かなり多い

【6月中旬】

- ・ 平均気温：かなり高い
- ・ 降水量：概ね少ない
- ・ 日照時間：多い

【6月下旬】

- ・ 平均気温：平年並
- ・ 降水量：概ね少ない
- ・ 日照時間：少ないからかなり少ない

図1 気象経過図（気仙沼アメダス：5月1日～6月30日）

2 水稻生育調査ほの生育概況

表2 水稻生育調査結果（7月1日調査）

品 種 地区名		田植日	栽植密度 (株/m ²)	草丈 (cm)	莖数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色値 (GM)
ひとめぼれ 気仙沼市 (本吉町)	本 年	5/14	20.4	50.2	771.1	9.7	42.9
	前年比・差		±0	104%	118%	-0.2	+1.9
	平年比・差		±0	107%	118%	+0.1	+3.0
ひとめぼれ 南三陸町 (志津川)	本 年	5/12	18.6	52.1	474.3	9.6	38.3
	前年比・差		+6	104%	109%	-0.1	-3.0
	平年比・差						
県平均値	本 年			50.3	548	10.0	42.2
	平年比・差			104%	97%	+0.1	-0.1

注1) 平年値は平成27年から令和元年までの5か年の平均値。

注2) 志津川ひとめぼれは平成30年度から調査開始のため平年値はなし。

注3) 県平均値は，県内31地点の生育調査ほ（品種：ひとめぼれ，ササニシキ）の平均値。

- ・ 県内の生育調査ほにおいては、平均気温が高めに推移したことから、生育は平年並で概ね順調に進んでいます。
- ・ 管内の生育調査ほにおいては、葉数は前年並、莖数は前年並からやや多くなっており、生育は順調に進んでいます。

3 今後の管理の留意点

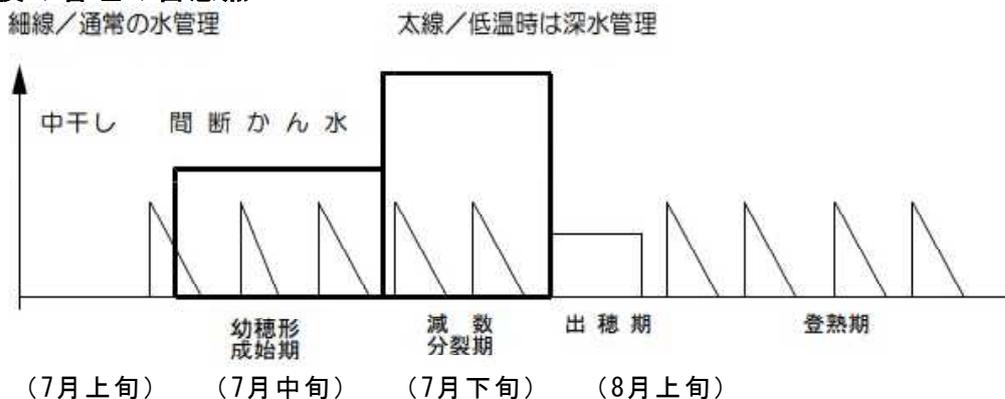


図2 水田水管理体系

【中干し】

- ・ 有効莖数が確保されたほ場（表3）では、中干しを実施しましょう。
- ・ 中干しは、根の活力の向上、無効分げつの発生抑制、作土層の硬化促進などの効果があります。
- ・ 中干しは、「田面に小さな亀裂が入り、軽く足跡がつく」程度とします。
- ・ 中干し終了後、急に湛水状態にすると土壌の還元が急激に進み、中干しをしない場合よりも酸素不足になり根を傷めやすいので、中干し終了直後は走り水程度とし徐々に湛水状態に戻しましょう。

表3 品種別有効莖確保期の目安

（県栽培ごよみより）

品種名	時期	㎡当たり 莖数（本）	田植時の設定株数	
			50株/坪(15.2株/㎡) の場合 1株当たり本数	60株/坪(18.2株/㎡) の場合 1株当たり本数
ひとめぼれ	6月20日頃	310~360	20~24	17~20
ササニシキ	6月25日頃	460~500	30~33	25~27
まなむすめ	6月20日頃	460~500	30~33	25~27
みやこがねもち	6月30日頃	380~430	25~28	22~24

表4 適正穂数及び品質を確保するための生育目標値「ひとめぼれ」

	分げつ最盛期頃	最高分げつ期頃	幼穂形成期頃	減数分裂期頃
草丈・稈長(cm)	32~34	45~48	56~59	66~69
莖数・穂数(本/㎡)	310~360	460~520	470~530	450~500
葉緑素計値	41~44	40~42	38~40	35~37

表5 幼穂の長さとお穂までの日数の目安

生育ステージ	時期 本吉「ひとめぼれ」平年値	出穂前 日数	幼穂長 (mm)	葉耳間長 (cm)
幼穂形成始期	7月12日	25日	1~2	-
減数分裂期	始期	-	30~40	-10
	盛期	7月23日	12日	80~100

注) 葉耳間長：止葉の葉耳とその下の葉の葉耳との間隔によって、出穂前日数を知ることができます。

【雑草防除】

- 初期剤や初中期一発剤を散布したほ場でも残草があれば、雑草の種類や葉齢、稲の葉齢を確認し、適切な薬剤で適期に防除しましょう。
- ヒエやイヌホタルイ等の雑草は、稲の出穂前に斑点米カメムシ類を水田に呼び寄せます。またシズイにもアカスジカスミカメが寄生・産卵します。雑草対策を徹底しましょう。
- 畦畔や農道、雑草地、休耕田等のイネ科雑草は、カメムシ類の主な増殖源となるので、計画的な草刈りを行い、カメムシ類の増殖を抑えましょう。

【病害虫防除】

①いもち病

- 箱施用剤等による予防防除を行っていない場合は、水面施用剤による防除を行ってください。
- 箱施用剤等による予防防除を行った場合でも、発病が確認された場合は、速やかに茎葉散布剤で防除してください。
- 葉いもちは、直接収量や品質に影響を及ぼす穂いもちの伝染源となります。病徴が進展してからの防除では十分な防除効果が期待できないので、水田をこまめに見回り、早期発見・早期防除に努めましょう。
- アメダス資料による感染好適日の推定では、6月中旬及び下旬に県の一部で好適条件または準好適条件が出現してします（6月28日現在）。
- 最新の葉いもち感染好適条件の出現状況は、県病害虫防除所ホームページで確認できます。（<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>）

②コバネイナゴ

- 齢が進んでから薬剤散布を行うと効果が低下するので、本田侵入盛期（7月6～10日）を目安に中齢幼虫が主体（体長1.5cm程度）の時期までに防除を行ってください。

1か月の天候の見通し 東北地方（6月27日～7月26日）

（7月2日 仙台管区气象台発表）

予報のポイント

- 暖かい空気に覆われるため、向こう1か月の気温は高い見込みです。
- 前線や湿った空気の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は平年並みから多く、日照時間は平年並か少ないでしょう。

・・・・農薬危害防止運動実施中（6月1日～8月31日）・・・・

農薬を使用する前には、必ず使用可能な作物名等ラベルなどで確認し、使用時期、使用方法、使用量を守って適正に使用しましょう。

※最新の農薬登録情報は、農林水産消費安全技術センターのホームページで確認できます。

HP<<http://www.acis.famic.go.jp/searchiF/vtll001.html>>

○だて正夢の栽培管理

表6 だて正夢現地栽培技術普及展示の生育調査結果（7月1日調査）

品 種 地区名		田植日	栽植密度 (株/㎡)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (枚)	葉色値 (GM)
だて正夢 気仙沼市 (本吉町)	本 年	5/13	20.8	52.2	470.1	9.5	42.9
	前年比・差	±0	107%	115%	119%	+0.7	+3.6
だて正夢 県平均値	本 年			55.4	486	9.9	44.6
	前年比・差			104%	94%	-0.1	+0.1

注1) だて正夢は平成29年から調査開始のため、平年値はなし

注2) 県平均値は、県内9普及センター+古川農業試験場の平均値

- ・「だて正夢」は「ひとめぼれ」よりも茎数の増加が緩やかで、葉色がかかなり濃く維持される特徴があります（図3）。

【中干し】

- ・中干しは、根の活力の向上、無効分けつの発生抑制、作土層の硬化促進などの効果があります。中干しは、「田面に小さな亀裂が入り、軽く足跡がつく」程度とします。

【追肥】

- ・「だて正夢」は千粒重が小さく、乳白粒も発生しやすいため充実度不足による落等が生じやすいので、登熟向上の効果が高い減数分裂期の追肥が重要です。
- ・目標の茎数が確保されている場合は、減数分裂期に窒素成分で2kg/10aの追肥を行うことで、整粒歩合の向上をはかります。
- ・有効茎数が不足し穂数不足が予想される場合には、幼穂形成期と減数分裂期に窒素成分で1kg/10aずつを施用し、適正籾数の確保をはかりましょう。
- ・生育過剰で倒伏の恐れが心配される場合には、追肥を見送ります（詳細は水稻新品種「だて正夢」栽培の手引きを参照願います。）

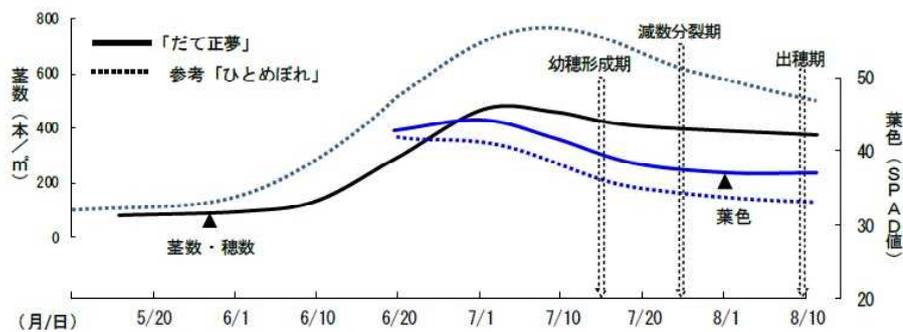


図3 「だて正夢」生育のイメージ

注) 平成28～30年栽培試験にて適正な籾数・収量・品質を得た試験区の生育をもとに作図

表7 「だて正夢」の生育量の目安（「だて正夢」栽培の手引きより）

	幼穂形成期 7月15日頃	減数分裂期 7月25日頃	出穂期 8月10日頃
草丈 (cm)	64～70	76～82	-
茎数・穂数 (本/㎡)	390～460	380～420	350～400
葉色 (SPAD値)	40～42	37～39	35～37
主茎葉数 (葉)	10.0～10.8	11.4～12.2	12.5～13.0